

天台宗 宝橋山 高蔵寺

歴史・沿革

孝徳天皇草創、法道仙人が宝橋山と号したことが始まりといわれる。草創から近年までの歴史をご案内。

現在のページ：

▶ [トップページ](#)

▶ [歴史・沿革](#)

当

山開創は孝徳天皇大化2（646）年播磨国法華山一乗寺を草創して、この地を訪れた法道仙人が、黒頭峯（くろづほう）の嶺にかかる金銀珠玉の雲の架け橋を見て宝橋山（ほうきょうざん）と号したことが始まりといわれる。いにしえの頃、黒頭峯の堂之尾（どのお）と呼ばれた中腹には、七堂伽藍二十一間の堂宇を誇ったが、天正年中、明智軍の兵火に遭い、消失した。

その時、氷上柚子村（ゆずむら）の人が雑兵にまぎれて守り奉ったのが、現存本尊十一面観世音菩薩と伝えられている。

この十一面観世音菩薩は、稽文会・稽首勲両仏師の作で、大和（奈良）長谷寺の観音像と同木同作と伝承され、普段は秘仏として宮殿（くうでん）の中にお祀りされているが33年に一度御開扉される。

兵火に遭った後、本堂は、聖徳2（1714）年。本尊脇侍の龍王権現と雨法童子は、共に永禄10（1568）年の作である。

近年では、平成7（1995）年に新・丹波七福神霊場として弁財天が奉安された。また、平成13（2001）年に檀信徒の先祖供養、回向道場として新たに阿弥陀堂が建立された。山門から本堂にかけての寺領は春には桜、夏には紫陽花、秋には紅葉、冬には椿と四季を通じて花の寺として知られている。特に平成25（2013）年より篠山市内文保寺、大國寺と共に「丹波篠山もみじ三山」として秋には多くの方が訪れている。



（写真は御前立）

[トップページ](#) | [歴史・沿革](#) | [境内案内](#) | [高蔵寺の四季](#) | [アクセス方法](#)

丹波篠山もみじ三山／篠山市西国第八番／丹波国西国第十一番／新・丹波七福神霊場 弁財天奉安
〒669-2812 兵庫県篠山市高倉276